

病院だより とよなか

脳卒中の治療なかで現在注目されているのが、脳梗塞超急性期の血栓溶解療法です。この治療法は、t-PA※ (tissue plasminogen activator)という血栓溶解剤を使用して血管に詰まった血栓（血の塊）を溶かして血管を開通させ脳梗塞を治療するという方法です。ただし、この治療が有効なのは発症後3時間以内の患者さんに限られるため発症直後に来院していただく必要があります。

平成19年4月に当院の脳卒中センターが発足し、2年半の間にこの治療により多くの患者さんが回復されています。

なお、発症3時間を超えた患者さんに対しても、他の治療法で対応します。

脳梗塞患者数
(平成20年度)

291名

t-PA 治療 47例

(市立豊中病院実績)

※t-PA：次頁「豆知識」参照

●● 脳卒中センターの診療体制

担当医（脳神経外科医・神経内科医）が24時間365日間体制で対応しています。患者さんが救急車で搬送されている間、救急隊員からの直接連絡で状態を把握しながら受け入れの準備をします。

緊急の患者さんに限っていますので、急を要しない患者さんは通常の診察時間におこしください。

- 24時間365日対応可能な緊急治療体制
- t-PA治療患者および重症脳卒中患者はICU（集中治療室）あるいはHCU（準集中治療室）に入室
- 脳内出血・くも膜下出血の、緊急手術対応
- 急性期のリハビリテーションの推進（早期社会復帰に向けて実施）



脳内出血の緊急手術

●● 医療連携 - 脳卒中地域連携パス

脳卒中を発症すると病状の程度により後遺症が残るなど、治療・療養を余儀なくされる場合があります。退院後のリハビリテーションや、再発予防のための通院治療の継続など、診療に関わる病院などが連携し切れ目のない診療体制が必要です。

平成20年7月より豊能医療圏※脳卒中地域連携パスを導入し、地域の医療連携を図っています。

※豊能医療圏：豊中市・池田市・吹田市
箕面市・豊能町・能勢町

豊能医療圏 脳卒中地域連携パス

